

令和 6年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472401338	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年3月1日
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ茅ヶ崎萩園		
所在地	(〒253-0071) 神奈川県茅ヶ崎市萩園1202		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和6年8月21日	評価結果 市町村受理日	令和6年11月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者、お一人お一人に笑顔で寄り添い、ご利用者が居心地の良い安心した生活となるようにと、日々スタッフ間で話し合っています。また生活支援の場でもあり、ご利用者と一緒の食事作り、清掃等も手伝って頂いています。  
定期的に外出、ドライブ等も随時行っていました。コロナが5類になり、今まで通り面会は制限なくご支援をしています。介護スタッフの異動も少なくご家庭、ご利用者双方と顔なじみの信頼関係を構築出来ていることで、スムーズな介護が提供出来ています。ご利用者の重度化への対応として医療連携を行い、馴染みの関係、安心した生活を送った中で最期の時を迎えられるよう、看取り介護を行っています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和6年9月20日	評価機関 評価決定日	令和6年10月2日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

#### 【事業所の優れている点】

##### ◇利用者最優先の運営

利用者最優先を基本方針とし「介護の心得」を策定して、利用者が笑顔で居心地の良い安心した生活を送れるように、日々のケア、適切な医療連携と介護計画の実践に向けて取り組んでいる。身体拘束排除宣言を掲示し、虐待防止に向けて介護者の言動（説明の仕方、声のトーン、スピーチロックの有無等）に絶えず気を付け、様々なミーティングの際に話題にして職員相互に注意し合っている。

##### ◇充実した職員育成計画

事業所の年間30分研修計画があり、接遇、認知症及び認知症ケア、利用者のプライバシー、身体拘束排除、虐待の防止、BCP、事故発生予防、事故発生時緊急対応、倫理と法令遵守、感染症予防に関して、職員が輪番制でリーダーになり勉強し学んでいる。

#### 【事業所が工夫している点】

##### ◇家族との密な連携

利用者の日常の生活やレクリエーションの姿を写真と手紙を添えて毎月家族に届け、返信欄を設けて意見や要望を聞く体制にしている。利用者に体調変化等があれば、家族に即時に電話で対応を含めて情報提供している。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ミモザ茅ヶ崎萩園
ユニット名	ささなみ(1階)

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		4, ほとんどない	
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社経営理念、運営方針、事業所の理念に対する介護の心得を作り職場に提示し、職員間で理念にのっとり実践に取り組んでいる。	・法人の2024年スローガン「飛躍しようみんな仲良く」を掲示し職員間で共有している。 ・介護現場やミーティングで原点である「利用者最優先」に立ち戻り、理念・介護の心得の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが5類になった為自治会長はじめ地域の方々との運営推進会議の再開、今後は随時催し物を教えて頂き桜まつり、福祉祭り、浜降祭等に参加させて頂いたいただきます	・自治会に加入し地域情報を得ている。利用者は地域行事の桜まつり、紫陽花祭りに参加し、浜降祭の神輿（事業所前を通過）を見て楽しんでいる。 ・傾聴ボランティア等を受入れ、利用者と地域の繋がりを維持している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民やご家族様に施設で行う認知症ケアの研修（勉強会）の参加を促し、認知症の理解を深めて頂く。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5類対応になった為二か月に一度開催、入所人数、見学者の報告や避難訓練などについて報告をはじめ意見交換の場として活用している。	・市と地域包括支援センターの職員、自治会副会長、民生委員、家族を会議構成員とし2か月毎に開催している。 ・サービス提供状況を報告している。災害発生時の利用者の安全確保、地域住民との連携等について意見交換している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホームの意見交換、情報交換をし、協力関係を構築している。	・市役所に諸手続きで出向く以外にも、市の担当職員とメール、Fax、電話で情報交換を密に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	日頃よりご利用者のケアについては研修、勉強会を通して、身体拘束については年6回拘束委員会を開き正しい理解を職員間で共有、実践している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「身体拘束適正化委員会」を年6回開催し、話し合った内容を全職員に周知している。</li> <li>・30分研修でも年2回身体拘束をしないケアの方法について勉強会を開催している。</li> </ul>	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のミーティング、カンファレンスや申し送り等で介護者の言動が虐待に繋がる事例等その都度伝え防止に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者虐待防止委員会を設置し、年6回開催し、話し合った内容を職員に周知している。</li> <li>・介護の心得をベースにし、スピーチロック、話しかけるときの声の調子、説明の仕方に注意するようにしている。</li> </ul>	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症のケアをしている中で勉強会などを通して成年後見人制度について学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に訪問調査や契約時は不安や疑問点を尋ね、解約時はご利用者、家族と十分話し合い説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりコミュニケーションを図りご利用者家族等の意見はミーティングや会議等へ上げ反映に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメント情報、毎月の生活状況報告書の返信欄、日常の利用者との会話、家族来訪時を中心に利用者、家族の意見、要望を把握している。</li> <li>・把握した内容はケアプラン等に反映している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員から意見、提案、改善のコミュニケーションを心がけている。スタッフ会議等の際に意見を聞いて話し合っている。	・ケアカンファレンス、ユニット会議、日常の会話、アロー委員会(事業所の基本施策を検討する幹部会)等を通じて職員意見を確認している。 ・ケア方法、行事計画等に職員意見を反映している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年1回の創業式典では社長賞、本部長賞、功労賞等を設け表彰している。キャリア評価制度が設けられており自身の評価査定と面談を行っている。事業所内研修の講師をする事や資格取得が昇給の評価点となりスキルアップ出来る。	・設置法人の「報酬制度実施要領」があり、個々の能力、資格に応じた給与体系にしている。 ・管理者は職員への面談を通して個々の努力や実績、仕事へのやりがいなどを把握し、就業環境の改善・整備に努めている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の総合研修所主催の介護研修への参加や法人以外の研修を受けるなど介護技術向上に努めている。地域連絡会の研修、勉強会に積極的に参加している。	・管理者は設置法人主催の研修や外部研修への参加を奨励し、介護専門資格取得、職員の能力や意欲の向上に努めている。 ・年間計画の30分研修、更に必要と思われる項目について事業所内研修を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者、介護支援専門員等が同業者間の交流を通じサービスの質の向上に取り組んでいる。地域連絡会の研修、勉強会に積極的に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、介護支援専門員が訪問調査を行い、ご本人の話をよく聞き安心して頂ける努力をし、ご家族からご本人の特徴や不安等をよく聞くよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問調査時や面会時ご家族とのコミュニケーションを図り、ご家族の思いや不安、要望などを尋ねよく話しを聞き安心して頂けるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の身体、精神症状について十分な話し合いを行っている。グループホームがどのような場か見学などの対応も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の生活の場としてご本人、ご家族から生活歴や背景、既往歴を理解し、家族やレクリエーション、行事などを通し職員は共同生活を支えあう関係を築くよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は日頃の様子や個人記録を読んで頂いている。毎月、生活状況と日頃の様子の写真を沿え送付し不安や要望などのコメントを頂くなどしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人と関係のあるかたについても気軽に足を運んで頂ける雰囲気づくりに努めなじみの場所への外出、外食にはご家族の協力を得ている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の友人・知人の来訪は殆どないが、対応体制は整えてある。(来訪者の本人確認、電話等の取次ぎ等。)</li> <li>・家族の協力を得て利用者の思い出の場所に行くことはある。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から職員がご利用者をよく観察し、声かけや仲介をする事で孤立せず関わり合える様支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に移られたり、他の施設へ転居された方の所へ職員が機会をみて訪問するなどしている。また、ご家族からも連絡を頂いたりもする。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	それぞれに個性を大切に、暮らしの把握をご利用者本人やご家族から情報を収集することでこれまでのサービス利用の経過等含め把握に努めている	・利用者の思いや意向を入居時のアセスメント、日常の会話や家族の情報で把握し、個別記録に記入して、職員間で共有している。 ・把握が困難な場合は、適宜に言葉をかけ、動作・表情・仕草・声等から判断し、利用者を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの把握をご利用者本人や家族から情報を収集することでこれまでのサービス利用の経過等含め把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタル測定（コロナ禍で朝、夕、サチレーション）と体温測定、食事（水分）量の把握、排泄リズムお把握を通しわずかな変化への気づきを大切に申し送り等で心身状態の把握に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人一人を観察することで、その方の課題がでてケアを職員間で職員で考え、ご家族、医療との連携によりカンファレンス、モニタリング、ケアプランに繋げている	・家族や医療関係者の意見やモニタリング結果を考慮して、カンファレンスで話し合い、6か月ごとに介護計画を見直している。必要に応じてその都度見直している。 ・介護計画書内容について家族の承認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録では、日々の様子から気づきを大切にしている。記録から他の職員も状態、情報を共有しケアの工夫も含め実践にいかしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化が見られた場合は医療連携24時間体制もあり、指示に従い対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議では、地域包括センター、民生委員、自治会、家族代表にも参加して頂いている（現在コロナ感染もあり中止しているが定期的にホームの情報等を送付し意見を頂いている）		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の訪問診療と週1回の訪問看護の実施の際、主治医看護師にご本人ご家族から直接体調の不安を聞き適切な医療をうけている。	・家族の同意を得て、利用者全員が協力医をかかりつけ医としている。 ・協力医は2週間に1度の訪問診療に加え、24時間対応し、皮膚科や内科などの仲介も行っている。 ・半分ほどの利用者が週1～2回のマッサージを受けている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の体調が悪くなった時や転倒、急変時は24時間連携がとれ指示を受けることが出来る体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携先の病院と連携しており随時状況を把握している。入院者が居なくても地域の基幹病院の相談室には訪問しSWと顔の見える環形づくりを行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃よりご家族に状況を伝え毎日の申し送り、スタッフ会議等でケアの方針を話し合っている。重度化したご利用者には終末期に向けてご家族の希望等話し合い、医療と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居時に、重度化と看取りに関する事業所指針を説明している。 ・重度化した場合は、家族、医師、事業所で話し合い、方針を決めている。 ・研修は、訪問看護師から「医療からの介護の仕方」を学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の勉強会や職場研修を通して急変時、転倒時の対応を身につけるよう努めている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行い、全職員が地域の災害時を想定し適切に行動できるよう努めている。	・避難訓練は年2回行い、1回は夜間を想定している。水害を想定した訓練には自治会の参加があり、1階から2階への避難を訓練している。 ・水や米、調味料を1週間分備蓄し、リスト管理している。BCPを策定し、9月に研修を予定している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者に対して入居の際「安心と尊厳の有る生活支援」「秘密保持」を約束している。職員は日ごろのケアで自尊心を大切に言葉かけをしている。	・職員は、プライバシー保護と接遇の研修を毎年受けている。利用者を年長者として敬い、自尊心を傷つけない言葉を使うよう心がけている。 ・フロヤトイレでは羞恥心に配慮し、他人に見えないように、失敗を知られないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自分の好きな洋服を選んでもらうなど自分の思いを表せる働きかけや非言語コミュニケーションにより受け止めたりしながら自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者それぞれのペースを大切に、しご本人の希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれの支援をしている。外出時にはおしゃれなものを着用したり、誕生会や行事の際はお化粧したり等楽しめるよう支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は役割を持ち、準備や盛り付け、かたづけ等をしている。	・メニューと食材は業者のものを使い、職員が調理している。盛り付けなどを手伝う利用者がいる。 ・外食に出かけたときは、利用者が好みのものを選んでいく。 ・庭で胡瓜やトマトを育て、利用者も水やりや収穫を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算されたメニューで量栄養バランスが良い食事提供を行っている。食事量、水分量を記録し摂取量を把握している。また嚥下状態に応じトロミを付けるなど、ご利用者にあつた食事形態にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け、介助を行い口腔状態やご本人のADLに応じた口腔ケアを実施している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	便意、尿意がない方にはさりげなく声掛けをするなどしている。また表情の変化からトイレへ誘導するなど、排泄に向けた支援を心がけている。	・トイレでの排泄を支援し、2時間ごとに声を掛けている。夜間は睡眠を重視して、大きいパットを使い、声掛けは4時間おきとしている。 ・立ち上がり訓練を続けたことで、おむつからリハビリパンツに改善した例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日ごろからの話し合いや勉強会等を通じ便秘の原因、影響を職員が理解、把握するよう努めている。また、医療連携と連携をとり飲食物の工夫や運動、下剤の調整を個々に応じ行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者の希望、タイミングに合わせて入浴している。また季節に応じた菖蒲湯、ゆず湯等で楽しんで頂けるよう工夫している。	・入浴は週2～3回を基本とし、入浴を嫌がる利用者には、時間を置いて声をかけている。 ・利用者の状況に応じてシャワー浴としている。 ・利用者は職員と歌を歌ったり、会話をしながら入浴を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日頃からの観察から椅子や車いすで傾眠されているご利用者には居室で休まれるよう声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師より副作用については詳しく説明してもらう等の連携をしている。また主治医、看護師から薬の目的、副作用、容量を説明してもらい症状の変化を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の張りをもって頂けるよう個別の役割（家事等）や楽しみ（趣味）の支援をしている。職員からもアイデアを出し合い楽しみ事や気分転換に外出、ドライブの支援をしている		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事の外出支援（初詣、お花見、紫陽花巡り等）は毎年恒例となり、また受診の際にはご家族、職員が連携協力している。他に近くのスーパーに出かけたり散歩に出かける等支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的に、利用者が公園を散歩したり、コンビニやスーパーで買物するのを支援している。</li> <li>・桜の花見やアジサイ祭、紅葉狩りなど季節を感じる外出やドライブを計画・実行し、利用者を楽しませている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の気分転換と体調維持のために、散歩や買物、外出レクリエーションを今後も継続することが期待されます。</li> </ul>
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては施設での管理となっているが、ご利用者が何か買いたい時は職員が付き添い買い物に同行している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話には出してもらう等支援している。また年賀状や贈り物を頂いた時等は手紙や電話で返事が出来るよう支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活の場の為、一人一人が気持ち良く居心地良い環境づくりに努めている。毎月の飾りつけ等で季節感を感じて頂けるよう工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リビングの掃除は、職員が毎日行い、コロナ対策でハイター消毒もしている。ほうきで掃いたり、テーブルを拭くなど手伝う利用者もいる。</li> <li>・季節を感じられるよう、ひまわり、朝顔、ハロウィンなどの飾りを利用者と作っている。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事スペースとテレビ前にソファがありテレビ、新聞等読んだり、ご利用者それぞれの思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時やその後もご本人、ご家族の希望を聞き、使い慣れた物や好みの物が置かれている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室には、エアコンやベッド、クローゼット、カーテンを備え付けている。</li> <li>・利用者は机やタンス、テレビ、家族の写真などを持ち込んでいる。</li> <li>・家族了解のもと、必要に応じて立ち上がりセンサーを設置している。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を発揮し「できる事」「わかる事」を職員を通じ安心安全な生活環境を提供するよう努めている。		

事業所名	ミモザ茅ヶ崎萩園
ユニット名	しおかぜ(2階)

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		4, ほとんどない	
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社経営理念、運営方針、事業所の理念に対する介護の心得を作り職場に提示し、職員間で理念にのっとり実践に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが5類になった為自治会長はじめ地域の方々の運営推進会議の再開、今後は随時催し物を教えて頂き桜まつり、福祉祭り、浜降際等に参加させていただきます		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民やご家族様に施設で行う認知症ケアの研修（勉強会）の参加を促し、認知症の理解を深めて頂く。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5類対応になった為二か月に一度開催、入所人数、見学者の報告や避難訓練などについて報告をはじめ意見交換の場として活用している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホームの意見交換、情報交換をし、協力関係を構築している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	日頃よりご利用者のケアについては研修、勉強会を通して、身体拘束については年6回拘束委員会を開き正しい理解を職員間で共有、実践している。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のミーティング、カンファレンスや申し送り等で介護者の言動が虐待に繋がる事例等その都度伝え防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症のケアをしている中で勉強会などを通して成年後見人制度について学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に訪問調査や契約時は不安や疑問点を尋ね、解約時にご利用者、家族と十分話し合い説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりコミュニケーションを図りご利用者家族等の意見はミーティングや会議等へ上げ反映に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員から意見、提案、改善のコミュニケーションを心がけている。スタッフ会議等の際に意見を聞いて話し合っている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年1回の創業式典では社長賞、本部長賞、功労賞等を設け表彰している。キャリア評価制度が設けられており自身の評価査定と面談を行っている。事業所内研修の講師をする事や資格取得が昇給の評価点となりスキルアップ出来る。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の総合研修所主催の介護研修への参加や法人以外の研修を受けるなど介護技術向上に努めている。地域連絡会の研修、勉強会に積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者、介護支援専門員等が同業者間の交流を通じサービスの質の向上に取り組んでいる。地域連絡会の研修、勉強会に積極的に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、介護支援専門員が訪問調査を行い、ご本人の話をよく聞き安心して頂ける努力をし、ご家族からご本人の特徴や不安等をよく聞くよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問調査時や面会時ご家族とのコミュニケーションを図り、ご家族の思いや不安、要望などを尋ねよく話しを聞き安心して頂けるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の身体、精神症状について十分な話し合いを行っている。グループホームがどのような場か見学などの対応も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の生活の場としてご本人、ご家族から生活歴や背景、既往歴を理解し、家族やレクレーション、行事などを通し職員は共同生活を支えあう関係を築くよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は日頃の様子や個人記録を読んで頂いている。毎月、生活状況と日頃の様子の写真を沿え送付し不安や要望などのコメントを頂くなどしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人と関係のあるかたについても気軽に足を運んで頂ける雰囲気づくりに努めなじみの場所への外出、外食にはご家族の協力を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から職員がご利用者をよく観察し、声かけや仲介をする事で孤立せず関わり合える様支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に移られたり、他の施設へ転居された方の所へ職員が機会をみて訪問するなどしている。また、ご家族からも連絡を頂いたりもする。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	それぞれに個性を大切に、暮らしの把握をご利用者本人やご家族から情報を収集することでこれまでのサービス利用の経過等含め把握に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの把握をご利用者本人や家族から情報を収集することでこれまでのサービス利用の経過等含め把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタル測定（コロナ禍で朝、夕、サチレーション）と体温測定、食事（水分）量の把握、排泄リズムお把握を通しわずかな変化への気づきを大切に申し送り等で心身状態の把握に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人一人を観察することで、その方の課題がでてケアを職員間で職員で考え、ご家族、医療との連携によりカンファレンス、モニタリング、ケアプランに繋げている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録では、日々の様子から気づきを大切にしている。記録から他の職員も状態、情報を共有しケアの工夫も含め実践にいかしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化が見られた場合は医療連携24時間体制もあり、指示に従い対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議では、地域包括センター、民生委員、自治会、家族代表にも参加して頂いている（現在コロナ感染もあり中止しているが定期的にホームの情報等を送付し意見を頂いている）		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の訪問診療と週1回の訪問看護の実施の際、主治医看護師にご本人ご家族から直接体調の不安を聞き適切な医療をうけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の体調が悪くなった時や転倒、急変時は24時間連携がとれ指示を受けることが出来る体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携先の病院と連携しており随時状況を把握している。入院者が居なくても地域の基幹病院の相談室には訪問しSWと顔の見える環形づくりを行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃よりご家族に状況を伝え毎日の申し送り、スタッフ会議等でケアの方針を話し合っている。重度化したご利用者には終末期に向けてご家族の希望等話し合い、医療と共にチームで支援に取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の勉強会や職場研修を通して急変時、転倒時の対応を身につけるよう努めている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行い、全職員が地域の災害時を想定し適切に行動できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者に対して入居の際「安心と尊厳の有る生活支援」「秘密保持」を約束している。職員は日ごろのケアで自尊心を大切にされた言葉かけをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自分の好きな洋服を選んでもらうなど自分の思いを表せる働きかけや非言語コミュニケーションにより受け止めたりしながら自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者それぞれのペースを大切にしながら本人の希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれの支援をしている。外出時にはおしゃれなものを着用したり、誕生会や行事の際はお化粧したり等楽しめるよう支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は役割を持ち、準備や盛り付け、かたづけ等をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算されたメニューで量栄養バランスが良い食事提供を行っている。食事量、水分量を記録し摂取量を把握している。また嚥下状態に応じトロミを付けるなど、ご利用者にあつた食事形態にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け、介助を行い口腔状態やご本人のADLに応じた口腔ケアを実施している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	便意、尿意がない方にはさりげなく声掛けをするなどしている。また表情の変化からトイレへ誘導するなど、排泄に向けた支援を心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日ごろからの話し合いや勉強会等を通じ便秘の原因、影響を職員が理解、把握するよう努めている。また、医療連携と連携をとり飲食物の工夫や運動、下剤の調整を個々に応じ行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者の希望、タイミングに合わせて入浴している。また季節に応じた菖蒲湯、ゆず湯等で楽しんで頂けるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日頃からの観察から椅子や車いすで傾眠されているご利用者には居室で休まれるよう声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師より副作用については詳しく説明してもらう等の連携をしている。また主治医、看護師から薬の目的、副作用、容量を説明してもらい症状の変化を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の張りをもって頂けるよう個別の役割（家事等）や楽しみ（趣味）の支援をしている。職員からもアイデアを出し合い楽しみ事や気分転換に外出、ドライブの支援をしている		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事の外出支援（初詣、お花見、紫陽花巡り等）は毎年恒例となり、また受診の際にはご家族、職員が連携協力している。他に近くのスーパーに出かけたり散歩に出かける等支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては施設での管理となっているが、ご利用者が何か買いたい時は職員が付き添い買い物に同行している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話には出してもらう等支援している。また年賀状や贈り物を頂いた時等は手紙や電話で返事が出来るよう支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活の場の為、一人一人が気持ち良く居心地良い環境づくりに努めている。毎月の飾りつけ等で季節感を感じて頂けるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事スペースとテレビ前にソファがありテレビ、新聞等読んだり、ご利用者それぞれの思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時やその後もご本人、ご家族の希望を聞き、使い慣れた物や好みの物が置かれている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を発揮し「できる事」「わかる事」を職員を通じ安心安全な生活環境を提供するよう努めている。		

# 目標達成計画

事業所名 ミモザ茅ヶ崎萩園

作成日 令和 6年 8月 21日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	ご利用者のADLが低下傾向で出来る事が出来なくなっている。	ご利用者の残存機能を見直し、出来る事を多く増やし生活の質の向上を図る	毎日の介護体験などを取り入れて筋力低下の予防、積極的にご利用者に生活の出来事に参加して頂き、生活の質の向上を図る。 定期的に外部の講師を招き新しい介護予防体操の質を高める。	6ヶ月
2	35	地域の防災訓練に参加出来てない	年に2回の防災訓練に対し、地域の方々を行う。 年1回地域防災訓練に参加し広域避難場所の把握を行う。	運営推進会議の場で自治会等の避難訓練実施をお聞きし、こちらから参加させて頂く事をお伝えする。	6ヶ月
3	40	嚥下状態の低下がみられ食事の状態の低下がみられる	嚥下運動などを取り入れて嚥下の状態の向上を図る 歯科医などに口腔内のケア 衛生士に口腔ケアの研修などを行い、利用者の口腔内の向上、嚥下状態の向上を図る。	医療連携の歯科医に研修の依頼。 食事の前に嚥下体操を行う。	6ヶ月
4					6ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。